●社協だより●●●





社会福祉法人福岡市社会福祉協議会

南区社協事務所(南区社会福祉協議会)

福岡市南区塩原 3-25-1 南区役所別館1階

TEL:092-554-1039 FAX:092-557-4068 Eメール: minamiku@fukuoka-shakyo.or.jp

生活支援ボランティアグループのご紹介! ~支えあいのまちづくり~

日常の"ちょっとした困りごと"のお手伝いを"できるときに、できることを、できる人が" 行う、身近な地域のボランティアグループです。コロナ禍の中でも、令和3年4月に3つの 新しいグループが立ち上がりました!

西花畑校区「おたがい様たい」

庭の草取りの様子と

[おたがい様]の気持ちを大切に活動しています。西花畑校区にお住い の方ならどなたでも利用でき、電球の交換や庭の草取り、網戸の補修な どのお手伝いをしています。

現在、ボランティアは若い世代からシニア世代までの40名で、互いに 無理をせず、息の長い活動を目指しています。

ちょっとしたことでも、まずは、お気軽にご相談ください。





▲案内チラシ

長住校区「長住お助け隊」

ゴミ出しなどの日常生活支援はもちろんのこと、お困りごとの相談支援 も行っています。

また、コロナ禍の中でも多くの住民に活動を知ってもらうため、イベント 型の研修を開催したり、チラシを活用したりするなど、幅広い世代への広 報周知に力を入れています。

そよかぜのメンバー▶

大楠校区「そよかぜ」

大楠校区にお住まいの方で「パソコンの操作が分からない」「足を痛め てごみ出しに行くことができない」など、日常の中でのちょっとした困りご とがある方へ、できる範囲でお手伝いします。現在、女性メンバー4人で 活動しています。

その他、ボランティア講座を開催するなど「そよかぜ」をより多くの方々 に知っていただけるように今後も活動を続けていきたいと思います。



「認知症サポーター養成講座」が開催されました!

「認知症サポーター養成講座」とは

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族の"応援者"となる「認知症サポーター」を 地域で養成することにより、認知症の方にやさしい地域づくりを目指していく講座です。

横手校区

令和4年6月に、横手中学校の1年生195名を対象に「キッズ認知症サポーター養成講座」を実施しました。校区内の福祉事業所ネットワーク「つなぐ応援隊」のメンバーが講師となり、認知症の方への接し方を説明したほか、先生が認知症の高齢者やその家族の役を演じた「認知症劇」の上演もありました。生徒たちからは「まちで認知症の方が困っているのを見かけたら、やさしく声をかけてあげたい」という感想が聞かれ、校区社協の清水五鈴会長は「認知症の方もそうでない方も、高齢者も子どもたちも、誰もがその人らしく安心して暮らすことができるよう活動していきます」と力強く話されました。



弥永西校区

令和4年8月に、町内会長や民生委員等を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施しました。自宅への帰り道が分からなくなってしまう高齢者の散歩などの支援をされている方などから、「ご本人やご家族に寄り添う支援や、困っている時の対応などを多くの人に知ってほしい」といった学習機会を求める声が多く寄せられたことがきっかけでした。

地域で認知症について理解し、相手の気持ちを考えられる方や、「迷っているのかな」と気づき声かけができる方が増えることは、"認知症の方が安心して暮らせる地域"への第一歩です。



高木校区

困ったときに「助けて」と言える 地域を目指して ~高木団地の取り組み~

高木校区の中で最も高齢化率の高い高木団地(高木2丁目2区町内会)では、住民の困りごとに対応するために、町内会長や民生委員を中心に、定期的な話し合いを行っています。

まずは「団地に住む人がどのような困りごとを抱えているか」を把握するために、アンケートを実施しました。ゴミ出しや電球の取り換えなど、日常生活上の不便さを感じている方がいることが分かりましたが、これまで具体的な相談の声が上がったことはほとんどなかったことから、「まわりに相談していいんですよ」というメッセージを伝えるチラシを作成・掲示しました。

さらに、相談しやすいように今まで地域行事等に参加したことがない方が関心をもつようなイベントを考えているところです。



筑紫丘校区

独居高齢者 お弁当配食会

令和4年5月に、コロナ禍で中止していた「ふれあい会食会」を、お弁当を公民館に取りにきてもらう"配食"という形で開催しました。町内ごとで受け取る時間帯を分け、さらに入口・出口を固定したドライブスルー形式で渡すことで三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いました。

「気軽に参加できてうれしい」という声が上がり、地域の高齢者にとって良い外出の機会となりました。

